

軽	一	の	和	盆		も	を	い	一	こ	ッ	て	だ	い	吹	ら			不
く	の	す	菓	に	少	い	視	る	に	は	プ	し	ろ	だ	い	さ			思
深	上	ぐ	子	乗	し	る	界	の	乗	は	中	ま	う	っ	て	れ			議
呼	で	近	が	つ	だ	で	に	は	つ	な	っ	っ	か	た	い	て			な
吸	仲	く	目	た	け	は	入	い	た	い	て	い	。	。	る	見			自
を	良	に	に	丸	視	か	れ	か	陶	と	る	る	。	。	る	え			分
し	く	置	映	み	線	と	と	思	器	さ	飲	い	。	。	。	る			
、	眠	い	り	の	を	っ	、	っ	に	か	み	。	。	。	。	。			
再	っ	て	、	あ	奥	っ	ま	っ	入	け	か	。	。	。	。	。			
び	て	あ	。	る	に	っ	る	っ	っ	の	け	。	。	。	。	。			
手	い	る	。	。	向	っ	。	っ	。	。	。	。	。	。	。	。			
元	る	。	。	。	け	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。			
に	雷	。	。	。	ら	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。			
視	鼠	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。			
線	と	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。			
を	紅	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。			
落	蘭	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。			
と	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。			
し	雫	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。			
	は	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。			

提	花	そ	繡			ろ	れ	こ	ま	い	わ	手	洋	よ	部	プ	り		た
案	の	れ	し			ん	が	う	で	た	っ	慣	服	う	分	ス	も		。
の	柄	と	ち			な	刺	し	に	。	て	れ	作	や	に	に	さ		
全	が	な	ゃ			方	繡	て	布	布	よ	た	り	く	針	入	ら		
体	欲	く	い			法	と	呼	に	に	う	こ	。	こ	を	れ	に		
像	し	形	な			が	呼	ば	絵	針	一	。	終	の	刺	花	白		
が	い	にな	さい			あ	ば	れ	柄	を	人	。	わ	柄	して	の	を		
言	と	っ	い			る	て	て	を	縫	で	。	。	の	い	刺	足		
葉	相	て	よ			こ	い	日	度	い	も	最	。	長	き	繡	した		
を	談	き	よ			に	る	々	に	付	。	初	。	く	、	。	た		
聞	した	て	。			も	こ	が	。	け	。	に	比	続	、	。	よ		
いた	雫	い				驚	と	頭	。	る	。	。	。	い	。	。	う		
だ	は	る				い	や	の	。	だ	。	。	。	た	。	。	な		
け	、	自				。	、	中	。	け	。	。	。	。	。	。	。		
で	。	分					縫	で	。	で	。	。	。	。	。	。	。		
は	。	の					い	も	。	。	。	。	。	。	。	。	。		
想	。	服					方	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。		
像	。	にお					に	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。		
で							い	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。		

て	ま	な	ず	や		ぞ	ス	う	三	の	ち	子	が	と	「		な	き
順	ま	い	つ	ろ		れ	に	と	人	サ	ゃ	の	必	思	「		い	ず
序	大	わ	縫	う		に	針	し	中	イ	ん	場	死	っ	何		そ	、
が	変	わ	っ	と		他	を	刺	で	ズ	も	合	こ	た	？		の	「
決	さ	よ	っ	思		の	刺	し	ず	感	付	量	い	け	知		響	刺
ま	を	。	て	え		刺	繡	続	ば	な	き	が	て	ど	ら		き	繡
っ	経	利	い	ば		を	け	け	抜	ら	っ	あ	や	違	。		に	・
て	験	だ	く	で		入	ど	て	け	一	き	れ	っ	う			後	・
い	し	っ	っ	可		れ	さ	お	て	人	り	だ	て	経			ず	。
る	て	た	い	き		手	、	り	大	で	や	か	の	験			さ	。?
も	お	り	う	け		伝	依	日	掛	ん	ん	し	同	も			る	か
の	か	楽	経	ど		い	飾	前	か	じ	い	じ	じ	と			よ	・
よ	な	を	験	さ		し	と	か	り	と	だ	や	こ	よ			う	?
。	い	感	も	、		て	女	な	な	け	け	っ	と	。?			な	」
わ	け	じ	し	こ		い	冥	洋	な	ど	め	ち	よ	。?			反	と
た	な	る	い	う		た	は	服	な	、	い	ゃ	。?				応	実
し	い	た	て	し		。?	そ	を	な	今	、	ん	。?				を	体
が	け	め	損	一		れ	れ	作	な	紅	、	あ	。?				返	の
教	な	に	は	針		。?	。?	ろ	な	蘭	、	の	。?				し	
え	い	は	は	針		。?	。?	。?	な	だ	、	の	。?				た	

た	ける			少	こ	服	服	栗	「	わ	だ	ス	「	可	「	「	「	「	た
針	る	裏		し	れ	に	に	は	は	ね	け	カ	わ	愛	そ	他	あ	た	
と	。	地		だ	ま	袖	頭	マ	い	？	ど	ー	か	い	の	っ	げ		
糸	学	か		け	ま	を	中	ネ	。	」	ト	ト	っ	な	欲	。	ら		
を	校	ら		口	の	通	で	キ			ッ	の	た	っ	し		。		
使	の	手		角	授	し	花	ン			プ	刺	わ	。	い				
っ	の	の		が	業	た	柄	に			ス	繡	た		の				
て	授	感		上	で	自	の	着			は	は	。	。	ね				
、	業	触		が	け	分	刺	せ			ち	わ	。	。	。				
今	で	だ		っ	針	を	繡	ら			ゃ	。			ど				
自	し	け		た	の	想	を	れ			ん	が			こ				
分	か	で		。	行	像	加	て			と	や			？				
は	触	針			方	す	え	い			自	っ							
手	つ	の			を	。	、	る			分	て							
作	た	行			報	そ	完	自			が	あ							
り	こ	方			わ	れ	成	分			作	げ							
で	と	を			れ	た	し	っ			っ	る							
洋	も	追			た	気	た	。			。	わ							
服	な	い			が	し	洋				い	。							
を	か	か			し	て					い								

作っている。まさかそんな日が来るなどと夢にも思っていないかった。すでに自分の分を作り終えているのに紅蘭と雷鼠は毎日こうして朝から晩まで付き添い見守ってくれている。名取は今でも差し入れとして甘味と飲み物を届けてくれる。依飾と女冥は一度鏡の中に戻ってしまっただけけど、時々どちらかが最後まで残っている自分の作業を見に来てくれる。女将や美禄や番才も、不安な気持ちを漏らしながらも嫌な顔一つせず話を聞いてくれた。そして、雫は一度手を止め横にあるマネキンを見つめた。そこには自分のイメージ通りに刺繍が施されたスカートがあつた。仏蘭はいつだつて心配してくれて、どんなわがままだつて快く受け入れてくれた。表に出てきた針をつまみ糸を引く。一番最初に思い描いていたのは、真っ白な洋服だつた。当たり前障りのない、誰も傷つけない色の。それを仏蘭に伝えた時のことがまた頭の中で再生される。

言葉に返事を返すわけでもなく、じつと次の	字を黒く塗りつぶしていた雫は、仏蘭のその	る。すでに手元の紙に書いた“白”という文	「んそうねー。」と何かを伝えようと考えてい	組んでいた腕の片方を顎に添え、仏蘭は「う	ったくの白って感じじゃないのよね。」	白も十分似合っているけど、わたしの中でま	「違うわ。そういうことじゃなくて、雫は	くなつた。」	を見て、それを書いた自分が無性に恥ずかし	雫は手元の紙に書いた“布は白”という文字	くて・・・。」	から、別の色って自分でも、その、わからな	その・・・お母さんに言われてたんです。だ	て、あんまりイメージが湧かないって昔から	「あつ・・・はい・・・すいません。わたしっ	た。」	ら、仏蘭は雫の方を見ることもなく言い放つ	床を埋め尽くす布を腕を組んで見下ろしなが	「あんたは白じゃないわね。」
----------------------	----------------------	----------------------	-----------------------	----------------------	--------------------	----------------------	---------------------	--------	----------------------	----------------------	---------	----------------------	----------------------	----------------------	-----------------------	-----	----------------------	----------------------	----------------

い	な	何	が	る	な	「	「	「	「	す	ど	は	つ	け	き	た	の	「	言
る	い	色	で	か	い	「	「	「	「	と	こ	思	て	ど	な	ら	青	「	葉
わ	い	に	き	か	い	「	「	「	「	と	こ	う	抗	そ	色	ね	が	「	を
。	。	も	て	か	い	「	「	「	「	と	こ	ほ	う	れ	な	。	混	「	待
そ	白	染	誰	そ	い	「	「	「	「	と	未	ら	こ	っ	の	ざ	。	「	っ
う	は	ま	か	、	る	「	「	「	「	と	熟	、	そ	っ	。	っ	。	「	た
考	危	れ	の	雫	哀	「	「	「	「	と	だ	清	そ	っ	。	。	「	。	。
え	う	る	た	は	し	「	「	「	「	と	っ	純	。	っ	。	。	「	。	。
る	く	け	め	誰	み	「	「	「	「	と	た	と	清	っ	。	。	「	。	。
と	て	ど	に	か	を	「	「	「	「	と	り	か	楚	。	。	。	「	。	。
さ	黒	、	涙	の	は	「	「	「	「	と	自	か	っ	。	。	。	「	。	。
、	頑	黒	を	こ	っ	「	「	「	「	と	信	清	。	。	。	。	「	。	。
例	固	は	流	と	き	「	「	「	「	と	の	楚	。	。	。	。	「	。	。
え	。	何	せ	を	り	「	「	「	「	と	な	っ	。	。	。	。	「	。	。
何	色	色	る	思	と	「	「	「	「	と	さ	。	。	。	。	。	「	。	。
色	は	に	の	い	こ	「	「	「	「	と	っ	。	。	。	。	。	「	。	。
だ	人	も	。	や	と	「	「	「	「	と	。	。	。	。	。	。	「	。	。
ら	に	染	白	る	こ	「	「	「	「	と	。	。	。	。	。	。	「	。	。
う	似	ま	は	と	と	「	「	「	「	と	。	。	。	。	。	。	「	。	。
と	て	ら	は	と	と	「	「	「	「	と	。	。	。	。	。	。	「	。	。

良い部分と悪い部分ってどっちもあるのよね。  
 あなたのお母さんにはどう見えているのかな。  
 んて知らないけど、わたしには凧にもちゃん  
 と色が見えてるわ。相手の心にそっと寄り添  
 ってくれる、優しい水色がね。」  
 仏蘭の言っていることは今すぐにはすべてを  
 理解することはできなかったが、それでも不  
 思議と心の内の不安を優しく撫でるように払  
 ってくれる感じがした。見つめる先にある色  
 とりどりの布のすべてが魅力的に見えてくる  
 「自分で考えなさいなんて言っときながら  
 否定するようなこととしてごめんね。だけど凧  
 にはさ、たくさん魅力的なところがあるって  
 教えてあげたくなるのよ。もちろん凧だけじ  
 やなくて、ここの宿屋にいる全員にね。」  
 仏蘭は少し照れ臭いのか、エプロンのポケッ  
 トに手を突っ込み大袈裟に凧に続きを促す。  
 「さーて、ちゃっちゃんと決めるわよ！今の  
 わたしの話は参考程度にしておいてちょうだ  
 い。凧は白でも十分似合うし、セットアップ



レ	て	ト		れ	情	成	いた	け	視	張	を			た	あ	よ	一	に	な
ス	横	ップ	足	だけ	が	感	た	の	線	の	して			文	る	う	口	す	ら
の	に	スの	の上	だけ	湧	と	自	服	を	糸	余			字	。	な	に	余	計
よ	広	の	で	逃	い	同	分	を	虚	も	分			の		色	白	計	に
う	げ	両	力	げ	て	時	の	作	空	切	な			横		で	と	に	い
に	て	肩	の	出	く	に	声	り	に	れ	糸			に		材	言	い	ろ
右	み	を	抜	した	る	意	が	終	向	、	を			“		質	つ	い	ろ
の	る	持	けた	いと	こ	図	反	え	け	雫	切			水		が	も	ろ	で
脇	。襟	、	腕	願	と	し	響	た	。自	は	つ			色		違	の	で	き
に	から	目	に	っ	が	て	し	んだ	分	は	た			”		う	前	き	る
向	続	の	推	て	不	い	て	と	は	今	。最			と		だ	の	る	し
か	いて	高	し	いた	思	寂	い	、頭	今	世	後			書		け	布	し	、
っ	て	さ	潰	の	議	し	い	の中	世	界	の			い		の	中	、	ど
て	チャ	に	され	に	で	い	と	で	一	に	瞬			た		には	には	う	す
伸	イナ	持	て	いた	なら	い	い	落	つ	だ	間			。		同	同	る	？
び	ド	ち	いた	。	ない	い	い	ち	さ	だ	に					じ	じ	？	白
る		上げ			。	い	い	着	さん										
装																			
飾																			
。																			



